

設立趣旨（2024年9月10日改訂）

今日の畜産に求められる最も大きな命題は地球環境との調和である。生産性と経済性を追求する結果、畜産は家畜排泄物や畜産廃棄物による悪臭や大気・水系汚染、生産現場での騒音、抗生物質・農薬や環境汚染物質の畜産食品を通じての人体への移行など、環境や人間生活に悪影響を及ぼすことも少なくない。加えて家畜の生命を尊重した飼養環境の改善も重要な課題である。これらの解決として、人と家畜にとって健康的な畜産環境を生み出すとともに排泄物・廃棄物のリサイクル・利用を通じて肥料やエネルギーなど新たな価値を創出することが必要である。

日本畜産環境学会は、家畜・畜産による環境問題、家畜排泄物の処理・利用、動物福祉を研究対象とする畜産環境学の進歩・普及を図り、畜産と地球環境の調和に貢献することを目的とする。

設立趣旨（旧版：2001年6月5日学会設立時に作成されたもの）

現在、わが国の畜産に求められるもっとも大きな命題は地球環境との調和である。しかし、厳しい経済情勢の中、生産性と経済性の追求を避けて通ることはできないことから、畜産環境対策だけに注力することは困難である。その結果、畜産環境が公衆衛生、精神衛生の両面から人間生活に悪影響を及ぼすことも少なくなく、家畜排泄物や畜産廃棄物による悪臭や水系汚染、家畜による騒音、抗生物質・農薬や環境汚染物質の畜産食品を通じての人体への移行などが問題となっている。一方、家畜の生産性決定には家畜を取り巻く環境が重大な要因となるが、国土面積、地勢、人口密度など制限因子の多いわが国においては、家畜に快適な環境を与えることは容易ではない。技術的、経済的に越えなければならない障壁は多く残されているが、動物にとって快適で、しかも人類に直接・間接的に無害で、むしろ廃棄物のリサイクルなどを通じて環境保全機能をも持つ畜産環境を創生することが理想である。

○ 日本畜産環境学会設立の必要性

現在、地球環境保全はすべての産業を行う上での大前提であり、畜産においても地球環境への調和なしには存続できないことが広く認識されている。本学会の前身である日本畜産環境研究会は1993年9月に設立され、約8年にわたる活動を通じて、畜産環境問題の認識、畜産環境保全に関する研究の基礎的および応用面の理解、畜産環境研究者の交流や他分野からの研究者の参入などに広く貢献してきた。しかし、現在もなお畜産による環境汚染は深刻な問題であり、具体的な解決策が早急に求められている。方策の立案やアイデアの発掘には、研究の推進が不可欠であり、根本的な問題解決には科学的なアプローチが必須である。とくに、畜産環境問題の解決には分野を越えた研究成果の結集が必要と考えられる。このような現状の反省と、将来の展望にもとづき、畜産環境に関わる多方面の研究の推進母体となるべき確固たる組織が必要であるとの合意を得、日本畜産環境研究会を学会として再編することとした。（2000年度日本畜産環境研究会）

○ 日本畜産環境学会の活動方向

- (1) 既存の学会・研究会の境界領域である畜産環境問題を扱う。
- (2) 畜産環境問題の低減やふん尿処理・利用などに関する技術だけを論じるのではなく、家畜、作業員、人間生活、自然などの相互間で生じる様々な問題を広く扱う。
- (3) 家畜個体の環境のみではなく、群レベルの生産システムとしての畜産に関する環境も対象とする。
- (4) 研究のレビューおよび総合的議論に重点を置いたシンポジウムを活動の中心とする。
- (5) 大学、国公立研究機関に限定せず、行政機関、民間企業等の広範な関係者を対象にする。
- (6) 畜産分野に限らず、広範な分野の関係者の個人レベルの相互交流の場をめざす。

○ 日本畜産環境学会の事業方向

- (1) 講演会
- (2) 学会誌および会報の発行
- (3) 共同調査、微生物資材などの共同規格の提案など